

哀情報による救急救命在宅患者ホームクラウドの一構成法

哀情報による救急救命在宅患者ホームクラウドの一構成法

○荻野正十 野地保十 安達大貴十

三菱電機インフォメーションテクノロジー
十 東海大学情報通信部

東海大学 野地研究室

内容

1. はじめに
2. モデル化方針と概念モデルの構成
3. 救急救命在宅患者ホームクラウドの構成法
4. 評価と考察
5. まとめ

遠隔医療の推進方策に関する懇談会 中間とりまとめ(H20.7.31)(概要)

目指す姿 - 遠隔医療を、持続可能な社会的システムとして定着させる

我が国の実情

○高齢化の加速
多くの地域で高齢化が加速し、急性・慢性疾患における地域医療の確保、医療の確保が課題。

○医療資源の必要性
少子高齢化・人口減少社会を踏まえ、限られた医療資源を有効活用し、高齢化社会の医療ニーズに対応するための医療提供体制の構築が急務。

○地方自治体による、ICTを活用した遠隔サービス提供が求められるという意識の高まり。IT導入の促進。

実効性

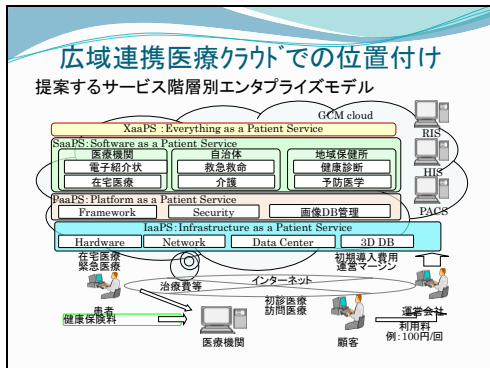
1. 診療報酬の適切な算定
先住民による適切な算定が、実効性・有効性について科学的根拠に基づいたデータに基づいた検証が必要である。従来、算定は医師の経験による。遠隔医療の導入による算定方法の検討が必要である。

2. 診療報酬の適正化
遠隔医療の導入による算定方法の検討が必要である。従来、算定は医師の経験による。遠隔医療の導入による算定方法の検討が必要である。

3. 地域医療の確保
遠隔医療の導入による算定方法の検討が必要である。従来、算定は医師の経験による。遠隔医療の導入による算定方法の検討が必要である。

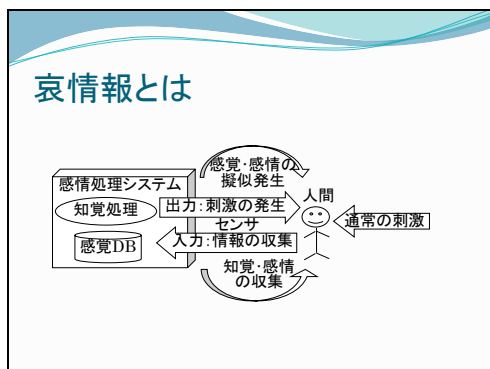
1.はじめに

- 広域連携医療エンタープライズモデルの構築
- 在宅医療における在宅患者向け救急救命システムの構成法
 - マルチセンサ網を用いたホームクラウド
 - 救急状態を判別する最適アラーム解法



2.モデル化方針と概念モデルの構成

- モデル化方針
個々の生活リズムを分析し、センサ情報を哀情報(NF: Negative Feelings)と捉え、救急救命構成法に組み込む。
- 現状の課題を解決する一つとして、自動通報機能付き救急在宅患者ホームクラウドの機能モデルを提案する



2.2 哀情報の構成方式

Configuration of Negative Feelings

	自動アラーム構成	手動アラーム構成
哀情報(NF)	アライブセンサ網	手動アライブ網
明白哀情報(ENF)	バイオ、血圧、肌、匂い、脈拍、音声、ストレス、体重...	
暗黙哀情報(INF)	電力計、ガスメータ、温湿度、圧力、人感、赤外線	押鈴、携帯電話通知、外部問合せ

